

UR-CC1

ウルヴェルク UR-CC1 「キング・コブラ」

ヒントとなったルイ・コティエの「コブラ」にちなんで、モデル名には「コティエ」と「コブラ」のふたつの「C」を盛り込み、愛称は「キング・コブラ」とした。25本限定。自動巻き(Cal.UR-CC1)。2万8800振動/時。18KWG(縦42.6×横53mm、厚さ18mm)。28万2000スイスフラン。



“King Cobra”

ルイ・コティエに
私淑した

真のレトログラード!

リニア表示

「アワーサテライト」という独創的な3次元回転体によって特異な刻時表現を追求してきた「ウルヴェルク」。そのデザイナー、マーティン・フライ氏が、アワーサテライトとほぼ同時期に考案していたにも係わらず、実現することなく眠っていたもうひとつの表現手法——レトログラード・リニア表示。ある高名な時計師の遺作との遭遇が、ついにそれを形にした。

レ
トログラード・リニア表示。ウルヴェルクのデザイナー、マーティン・フライ氏が1998年

に構想し、最初のスケッチを描いた直線的な時刻表示である。だが、このプロジェクトは当時、実現することはなかった。

しかし、ある高名な時計師の遺作に遭遇することで、その眠っていたプロジェクトが再び動き出した。ウルヴェルクの時計師、フェリックス・バウムガルトナー氏は言う。「ルイ・コティエが半世紀も前にパテックフィリップのために製作したプロトタイプが私にヒントを与えてくれました。それが、「コブラ」というニックネームを持つ、針もディスクもない時計だったので」

彼らは、2005年から3年の研究開発期間と1年のテスト期間を経て、今年、ついに「UR-CC1」を発表するに至った。バウムガルトナー氏の解決策のポイントには、トリプルカムとラックにある。トリプルカムには3つの山が垂直方向に設けら

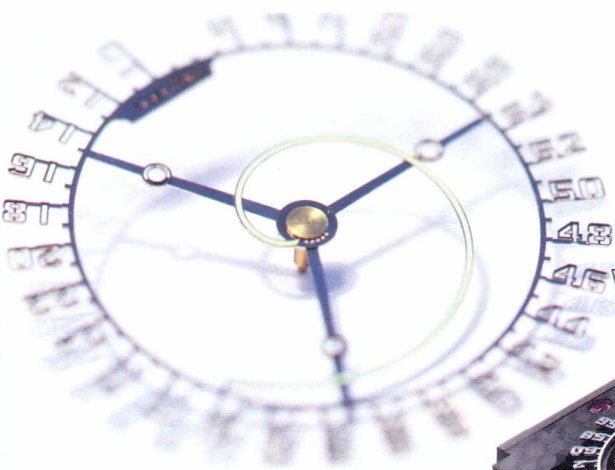
れ、カムの回転とともにその傾斜がケースサイドのラックを持ち上げる。すると、ミニッツシリンドラーと噛み合ったラック先端の歯がミニッツシリンドラーを回転させる。達する過程(最大300度回転)で、ラックを持ち上げるトリプルカムの山が頂点に達し、そこを越えようと、ラックはスプリングの力で、再び最下部まで押し戻される。この時の力がミニッツシリンドラーを逆方向に瞬時に300度回転させ、リニア表示を帰零させる。同時に、それが引き金になって、アワーシリンドラーを1時間表示分回転させる。トリプルカムは3時間で1回転し、それぞれの山が60分ずつラックを持ち上げるように設計されている。

また、バウムガルトナー氏は、ルイ・コティエのプロトタイプには備わっていなかった秒表示をリニア的に表示することにも成功。これは、さらにシンプルな方法で可能になった。基本は通常の秒針と同じ回

URWERK



右は、ミニッツシリンダーを駆動するラックを支えるブリッジ。中央にはラックを押し戻すスプリングが組み込まれる。左は、ニッケル製のラック。ミモテック社のフォトリソグラフィによる微細加工でハニカム構造が施され、強度を最大限維持しつつ、軽量化を実現。



上は、ミモテック社のフォトリソグラフィによって微細加工されたセコンドホイール。重量を極限まで軽量化するために、秒表示の数字はすべて肉抜きされている。ホイールのバランスを計算しながら肉抜きするには、高い技術が要求される。フォトリソグラフィの加工精度は放電加工よりも高い。

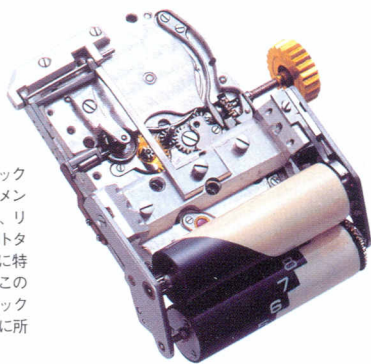


トリプルカム

セコンドホイール

ラック

利といえる秀逸なアイデアだ。ここで特筆したのは、これらの解決策を可能にしたのが、ミモテック社の持つ最先端技術のフォトリソグラフィだという点だ。ミモテック社といえば、シリコン製ガンギ車



ルイ・コティエは、パテックフィリップの角型ムーブメント Cal.9-90 をベースに、リニア表示腕時計のプロトタイプを製作し、1959年に特許を取得した。現在、このプロトタイプは、パテックフィリップミュージアムに所蔵されている。

1958年にルイ・コティエがパテック フィリップのために製作した世界初のリニア表示腕時計のプロトタイプ。アイデアはシンプルだが、実現するには数々の困難が伴った。ウルヴェルクの「UR-CC1」のソリューションにもヒントを与えた。



「私たちが求めているのは、時間を生きているという感覚を表現することです」
こう強調するバウムガルトナー氏が掲げるウルヴェルクのベーシックルールは、着け心地の良さや高い視認性という至ってノーマルなものだ。しかし、それらを極限まで追求したときに生まれた形こそが、何よりも彼らの個性と独創性を証明している。

転運動であるが、セコンドホイールの外周に沿って、数字をかたどったインデックスを配することで、デジタル表示を実現。さらに、ホイールの中心から外周に向かって、スパイラル状のラインを設け、これを時計上面の開口部から見せることで、擬似リニア表示に仕立て上げた。まさに、発想の勝利といえる秀逸なアイデアだ。

Contact info:
アワーグラス 銀座店 ☎03-5537-7888
www.urwerk.com